

東大井五丁目 安心な町・木陰プロジェクト

自然の癒しを、暮らしの中へ。

2026年5月7日



はじめに

日々更新されてゆく東京の街並み

大規模再開発と巨大な建築物がひしめき合う姿は東京を象徴する都市風景ですが

効率を高める反面で失ったのはそこに暮らす人々への癒しではないでしょうか

利便性より手間を楽しみ、収益性より日々のやりがいへ

だれもがそこに来ると安らげる町、そんなまちなみがつくれたら…

あしたの東京はもっと素敵なものになると考えます



キ ャ ャ オ フ ～ コ ン セ プ ト

問 い か せ

すずらん通りの理想の未来は？
タワーマンションが欲しい？
住民主導による地区計画を

目 指 す も の

失われた良き『まち』を復刻する
・失われた商店街を復刻する
・失われた樹々・空き地を復刻する

そ の 効 能

『まち』のオリジナリティ
・愛される『まち』が未来へ残る
木陰の癒しの大切さ
・樹冠被覆率の増加 = ヘルスケア

創 る も の

レトロ趣味こそ新しい
・昭和の街並みの保全
歩行者空間が『まち』の全て
・完全なウォークブルエリア



絵：松田けんじ

<グラフィながわ 1994年3月第12号 企画・発行 品川区企画部広報広聴課>

コンセプト～計画案

方針

今ある良いものを残してゆく
失われた良いものを取り戻す
良いものを明日へ繋げてゆく

現状

レトロな雰囲気新しい
歩行者空間が町の印象
木陰の癒しが大切

注目の区政

【都内初】
暑熱対策都市戦略「シェードボリシー」の策定
～気候変動に対応した新たな都市モデルの構築～

事業名 暑熱対策都市戦略「(仮称)シェードボリシー」策定 **新規**

予算額 7,500千円

背景・目的 近年、世界平均気温が過去最高を記録し、熱波による被害が拡大。日本でも令和7年に熱心の猛暑日が歴代最高日数を記録。品川区においては9月に120mm以上の猛暑な大雨による甚大な被害が発生した。こうした気候変動に対する取組として、3つの柱「緑の取組、新たな取組、商業施設の取組」を軸としてとりまとめ、「都心の気温を下げる」を基本構想とし、都市の暑熱化対策へ品川区が最初の一石を投じる。

ポイント ●災害時の避暑特化に備え、「涼しく歩きたくなるまち」を実現

事業概要 グリーンインフラ・緑地形成など、現在策定中である暑熱対策の取組と新たな取組の検討を行うとともに、対策による効果検証を実施し、取組として取りまね活用する。

1. 緑地の取組
・グリーンインフラの整備
・公園・緑地の設置
・緑地帯の活用 など

2. 新たな取組
・緑地の活用による歩行者空間の確保
・歩行者空間の整備
・歩行者空間の整備
・歩行者空間の整備

3. 商業施設の取組
・対策による気温低下測定
・区民への認知アンケート調査

【イメージ】
緑地の活用による歩行者空間の確保
歩行者空間の整備
歩行者空間の整備
歩行者空間の整備

シェードボリシー；
令和8年度 品川区当初予算案 プレス発表資料より

具体策

東小路飲食店街の復刻
緑日の開かれる商店街
子供の遊べる道路や空地
樹木と木陰の界限性

すずらん通り緑化計画
東小路復刻計画案

東大井五丁目1～4番地区

ゾーニング

エクストラエリア

現状の駐輪場および駐車場の協力を得て東小路移転の代替地、かつ新規商業エリアを開発する

すずらん通りエリア

電力・下水の共同溝を設置して電柱を撤収
その後に路面の舗装および街路樹の植樹を行う

東小路エリア

現状のままではインフラ整備が困難なので代替地への移転そして復旧（復刻）を計画

東大井五丁目1～4番地区

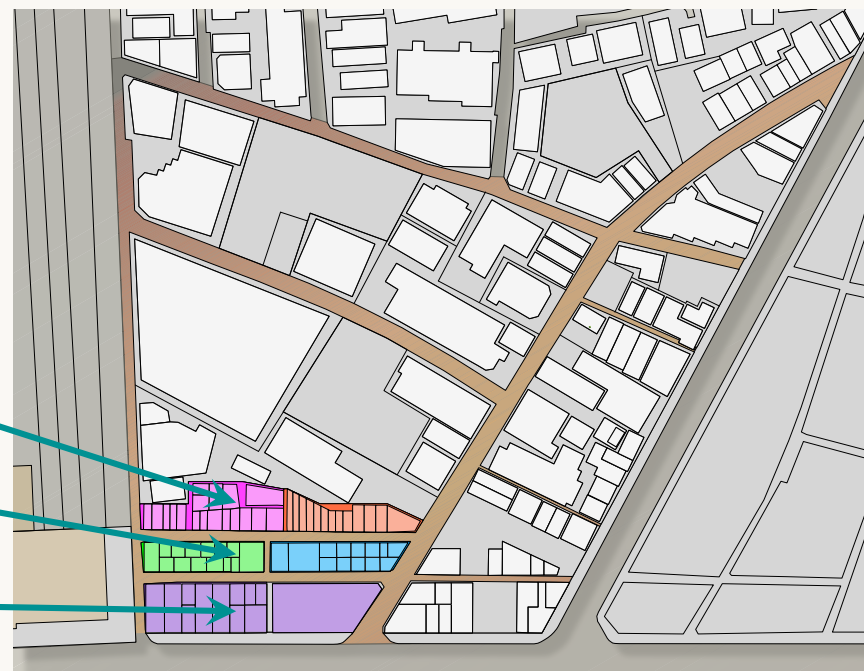
東小路復刻計画案

東小路エリア（大井東口商店街）
を三つのブロックに分けて考える

奥通りブロック

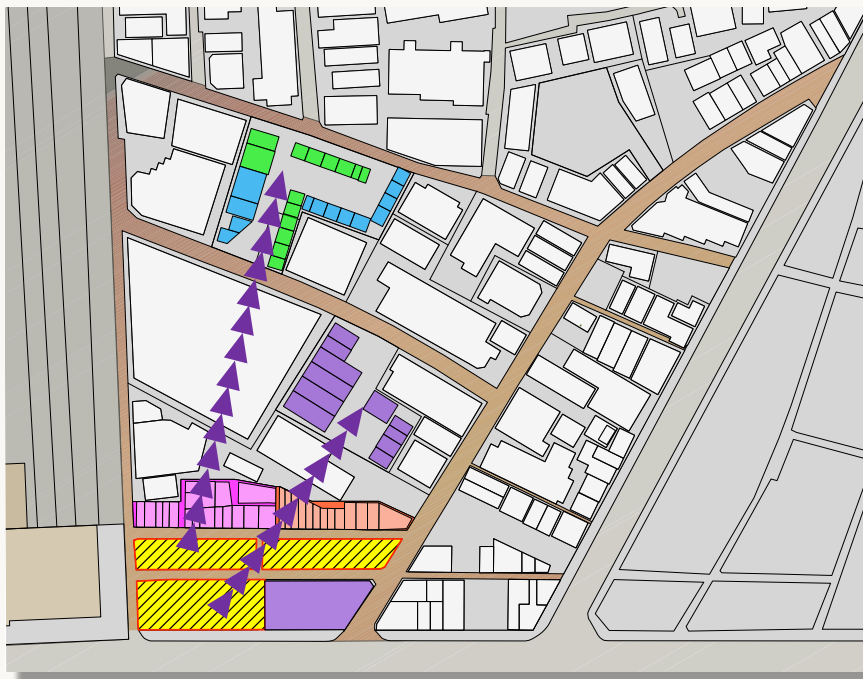
仲通りブロック

表通りブロック



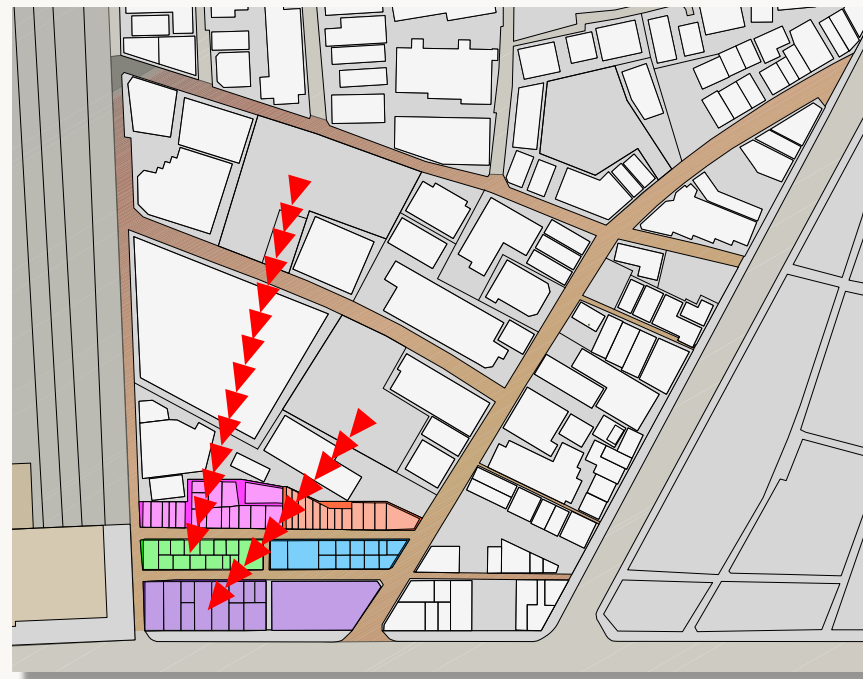
東大井五丁目1～4番地区

東小路復刻計画案



第1フェイズ 現状の駐車場へ表通りブロック
現状の駐輪場へ仲通りブロック
を移転する。

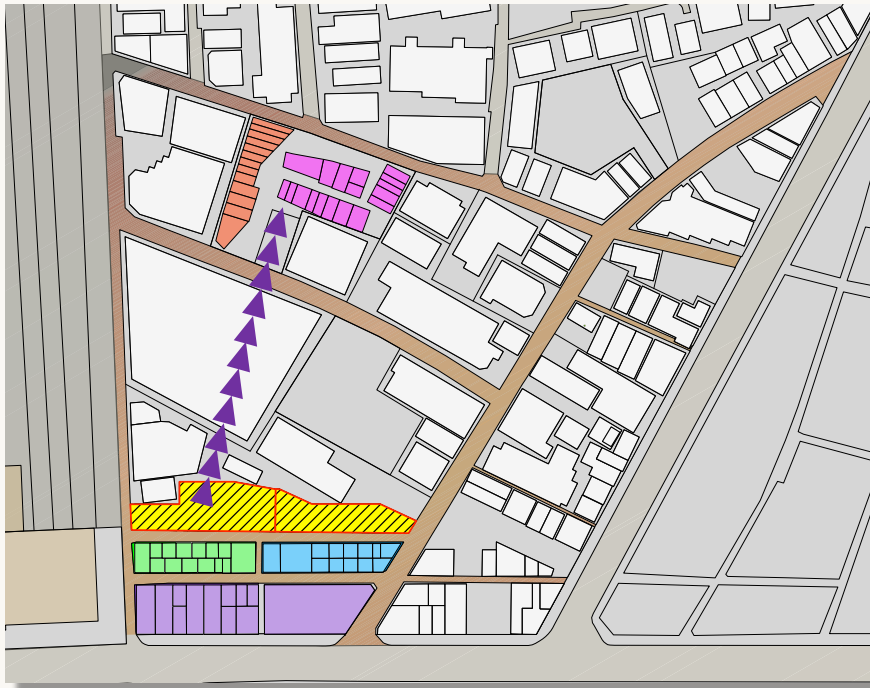
(ここでは面積を把握しやすくするためにあえて
現状の地形をそのまま移動して描いています)



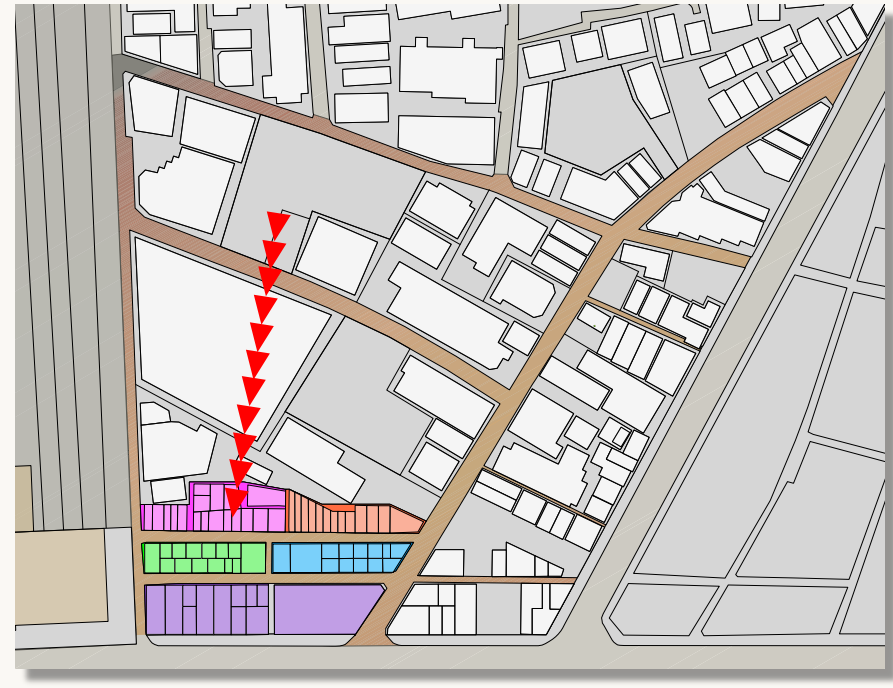
第2フェイズ 移転中にインフラ整備+新規建築工事をし
完了後、戻って復刻する

東大井五丁目1～4番地区

東小路復刻計画案



第3フェイズ 現状の駐輪場へ奥通りブロックを移転する。
(ここでは面積を把握しやすくするためにあえて現状の地形をそのまま移動して描いています)



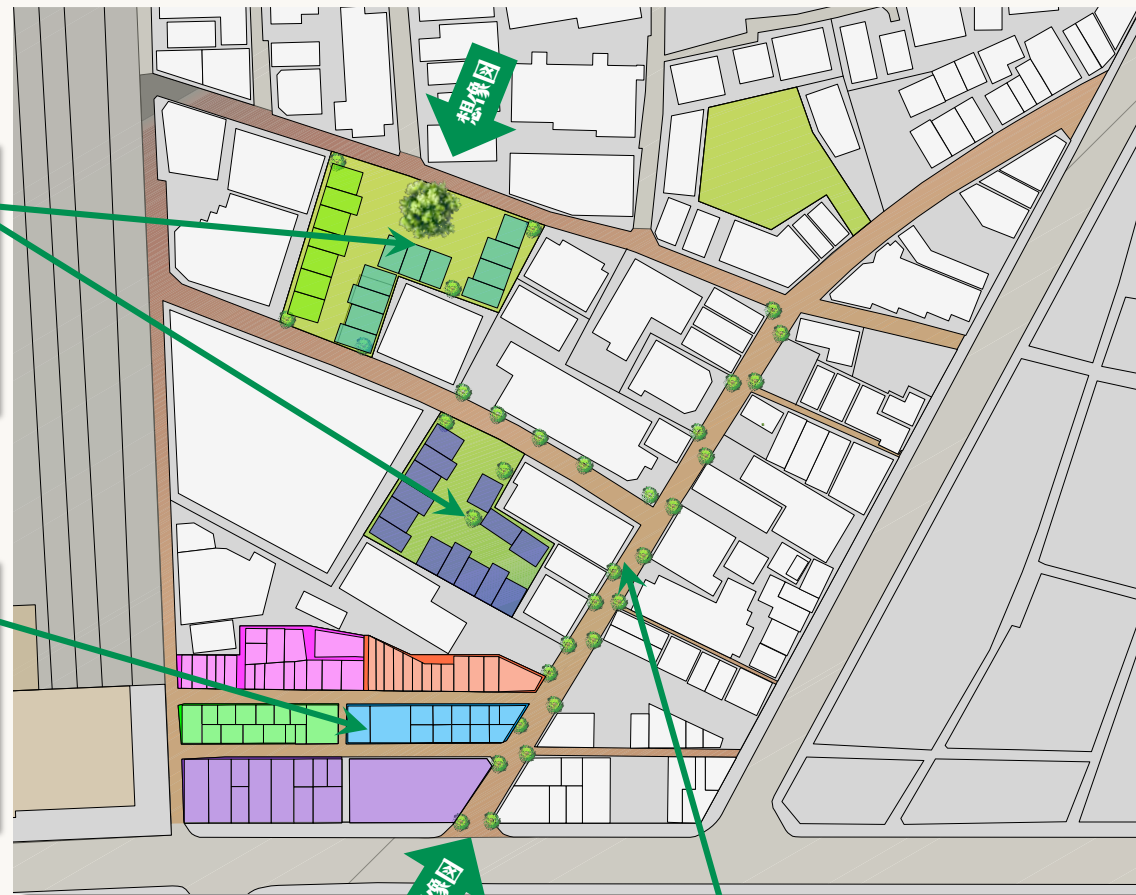
第4フェイズ 移転中にインフラ整備+新規建築工事をし完了後、戻って復刻する

東大井五丁目1～4番地区

すずらん通り緑化計画案

エクストラエリア；
東小路移転～復刻ののちに
使用済み建物を新商業エリア
として開発

東小路エリア；
東小路移転～復刻を果たして
インフラの課題は解決され
防災性能も向上し再生する



すずらん通りエリア；
個々の店舗等はそれぞれに店舗・施設を運営・継続する
『まち』の価値は緑化によってキープする

東大井五丁目1～4番地区

すずらん通り緑化計画案



共同溝埋設

区道Ⅱ-210号に共同溝設置
路側の電信線を地中埋設化



電信柱撤去
～路面舗装

区道Ⅱ-210号の現状のアス
ファルト舗装を舗石ブロック等
に変更



植樹～整備

遠藤の店舗と店舗の合間もしくは
マンション入口部等の空地に
樹木を植える

※画像はAIに概念を入力し描かせたものであり
実際の計画とは必ずしも一致しないものです。

東大井五丁目1～4番地区

すずらん通り緑化計画案



竣工想像図＜昼間イメージ＞



竣工想像図＜夜間イメージ＞

※画像はAIに概念を入力し描かせたものであり
実際の計画とは必ずしも一致しないものです。

東大井五丁目1～4番地区

エキストラエリア開発計画案



竣工想像図＜昼間イメージ＞

※ 画像はAIに概念を入力し描かせたものであり
実際の計画とは必ずしも一致しないものです。



竣工想像図＜夜間イメージ＞

安心な町・木陰プロジェクト 誰もがふらっと立ち寄り、涼み、見守りあえる町へ

気候変動による猛暑の常態化: 夏場の厳しい暑さにより 高齢者の外出控えや 子どもたちの熱中症リスクが高まっている
地域のつながりの希薄化: 近隣住民同士のコミュニケーションの機会が減少し 自然な「見守り」の機能が低下している
「休む場所」の不足: 町の中にお金を使わずに誰でも気軽に腰を下ろして休める日陰のスペースが少ない

猛暑対策・憩い 緑のシェルター（オアシス）

熱中症ゼロ・ひと休みポイント
アプローチ: 近年の記録的な猛暑から町の人々(特に高齢者や子供)を守る為の「**物理的な避難所=涼む場所**」としての木陰が重要

防犯・コミュニティ ふれあいの「止まり木」

自然な見守り・多世代交流
アプローチ: 木陰を「人が自然に集まる場所」と定義し 人が滞留することで「地域の目」が生まれ、結果として防犯や子や高齢者の見守りに繋がる「**心理的な安心**」が重要

防災・レジリエンス 命を守る防災グリーン

防災インフラ延焼防止・一時避難
アプローチ: 木陰（緑）が持つ防災機能（火災の延焼を防ぐ・雨水を保水する）や災害時の日よけ・雨よけとしての機能を期待できる木陰は「**災害に強い町**」に貢献

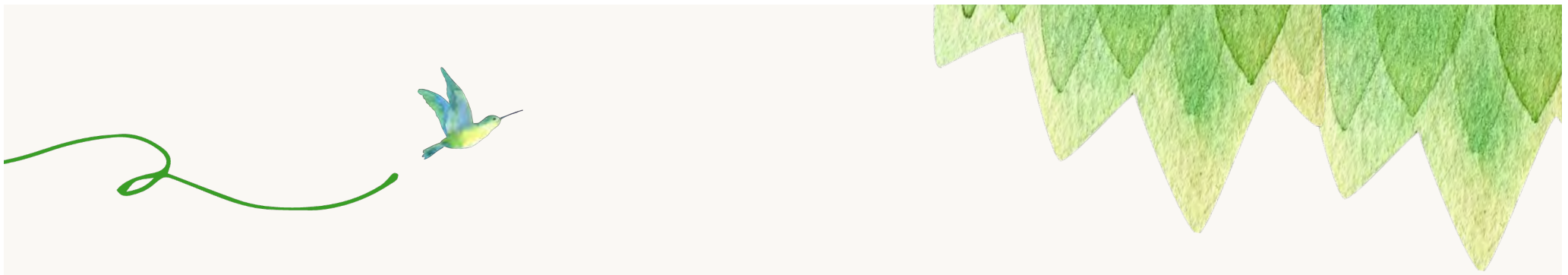
子供の遊びの場としての「街路」:

歩行者天国または通行止め区間を設定し **こどもが遊ぶ・こどもと遊ぶ** スペースとして活用

木陰のマルシェ/青空図書館:

整備した木陰を活用し 週末に小さな野菜市や **絵本の読み聞かせイベント**を開催し人が集まる動機づけに





あ り が と う ご ざ い ま し た